

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	一般小売店〔時計〕（経営者）	販売量の動き	・ 今月は腕時計のほか、時計用のバンドがよく動いた。雨の多かった5月から急に暑くなり、半そでで時計が目立つようになった影響もある。また、雑誌などの影響で時計を何本も持つことが珍しくなくなっているなど、来店客のすべてではないものの、客の気持ちや財布に余裕が出てきた。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・ 6月中旬ごろまでは天候に恵まれ、来客数も伸びたため、夏物商戦は好調なスタートとなった。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	販売量の動き	・ 3か月前と比べて、販売量、来客数共に少しは動きが出てきたものの、まだ落ち着きがみられる状態ではない。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・ 客の様子をみると若干余裕があり、値打ちのある商品にはお金を出す動きが少しずつ出てきている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・ 5月に比べて天候が良くなったことで、来客数が回復してきた。ただし、日照不足による相場高で青果物などの販売量は増えておらず、来客数の増加で売上を伸ばしている状況である。一方、最近では飲料水やアイスクリームなどの夏物商材も動き始めた。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・ 客の買い回りがみられる一方、単価は前年並みを維持しているほか、販売量が増えつつある。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・ 気温が高めに推移し、梅雨の時期にしては晴れ間も多かったため、売上は順調である。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	販売量の動き	・ オーダースーツやオーダーシャツなどをまとめ買いする客が増えている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・ 先月に続き小型車の販売が伸びている。ただ、高級車の引き合いや注文はほとんどなく、客に金銭的な余裕は感じられない。
		乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・ 比較的良好な車種の車が売れるようになってきたものの、株価が下がっているため今後の売行きが懸念される。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・ 夏物商材が動き出したことに加え、飲食店の出店に伴う設備需要が出てきたため、対応に追われる日も増えてきた。その一方で、仕入商品の値上げが広がっていることから、今後の販売への影響が懸念される。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	販売量の動き	・ ボーナスイベント前にもかかわらず直営店の売上が好調な動きとなっている。ただ、ゴルフなどの大型商材の動きはまだまだ良くない。
		観光型旅館（経営者）	単価の動き	・ 良い部屋から予約が入るようになってきた。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ 宿泊は今年度に入ってから順調に宿泊客が増えており、なかでもインターネット予約の比率が高まっている。一方、宴会や会議では、昨年行われた大型宴会が今年は3本も開催されなかったものの、新規会合の増加で売上は前年に近い水準まで伸びた。ただし、宿泊、宴会共に単価が上昇するまでには至っていない。
	都市型ホテル（役員）	それ以外	・ 宿泊では稼働室数が増えているほか、宴会では件数の前年比が3か月前に比べて伸びており、来客数の動きも良い。その一方で、レストランでは来客数が久しぶりに前年を下回るなど若干陰りがみられるものの、単価が上がっているほか、売上は前年の水準を上回っている。	
	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・ 7、8月の海外旅行を中心に、前年比110%以上の予約受付が続いていることから、飛行機の座席確保が困難になってきている。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ 単価の高いヨーロッパ旅行が堅調に伸びている。	

	通信会社（社員）	販売量の動き	・サッカーワールドカップの影響もあり、ケーブルテレビの加入はおおむね好調である。このまま夏のボーナス商戦でも液晶テレビなどの販売が好調であれば、ケーブルテレビの加入は更に増える。
	美容室（店員）	単価の動き	・今月はパーマとカラーを合わせたメニューのほか、高単価のストレートパーマがよく出た。
	その他サービス [フィットネス クラブ]（スタッフ）	来客数の動き	・見学者数や入会者数が増えてきている。
	住宅販売会社 （経営者）	それ以外	・取引業者の施工単価が上昇している。
	住宅販売会社 （経営者）	単価の動き	・以前のように急激ではないものの、商業地などの地価の上昇が続いている。
	住宅販売会社 （従業員）	競争相手の様子	・開発用地の取得競争が激しく、週単位で土地の実勢価格が上昇している状況である。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・1日の人出が特定の時間帯に集中することが多い。ただ、相変わらず客の引きが早い。
	一般小売店 [ 衣服 ]（経営者）	来客数の動き	・2～3月までの客の勢いが感じられない。7月のセール待ちの雰囲気も感じられず、春までの様子とは明らかに異なる。
	一般小売店 [ 菓子 ]（経営企画担当）	販売量の動き	・3月と6月の売上前年比を上位5店舗の平均で計算してみると、3月は126.7%で、6月は95.6%であった。昨年の愛知万博の特需による反動減を考えれば、全体としては悪くはないが、良くもない。
	一般小売店 [ 野菜 ]（店長）	競争相手の様子	・大手スーパーなども同様であるが、特に中規模のスーパーでは安売り商品しか売れないことから、売上が利益につながらない。
	一般小売店 [ カメラ ]（販売担当）	来客数の動き	・例年、梅雨の時期は3、4月と比べて売上が少なからず減少するが、今期は来客数が逆に増加している。その一方、客単価には低下がみられる。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・依然としてヒット商品が少ないなかで、一部のヒット商品の売上で前年の水準を確保している。特に、お金に余裕のある客はし好が偏っており、売上の増加につながりにくい。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・紳士部門がほぼ前年並みとなったほか、業界全体では苦戦した子ども関連商品でも、当店は改装効果で前年を上回った。衣料品全体としては、トレンド性の高いブランド商品は金額に関係なく売れる傾向がさらに強まっている。ただ、そのような商品は一部であり、全体が好調だとは言い切れない。
	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・婦人ファッションでは、客が買上点数を絞る傾向が続いている。
	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・春からの天候不順の影響で、夏物衣料の売行きの良い状況が続いているほか、7月初旬からのクリアランスセールを前に、下見の客が多く見受けられる。一方、中元商戦は早期割引の実施で好調となっている。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・中小企業のオーナーによる高級スーツや時計などの買上が増えている。その一方、7月のバーゲンセールを前に買い控えが起こっており、月の後半は店頭売上が極端に減っている。
	百貨店（営業担当）	単価の動き	・相変わらず100万円以上の大口商品の動きが鈍い一方、20～30万円の小口商品では動きの良い状態が続いている。
	百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・サッカーワールドカップの関連グッズを集中して展開したが、今一つ盛り上がり欠ける結果となった。ただ、夏物商材の水着を中心に婦人ヤングウェアが好調であるほか、相変わらず生鮮食料品の人気は高く、好調に推移している。
	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・来客数は前年並みであるものの、入店客のうちどれだけの方が買ったかを示す購買率は低下している。
	百貨店（店長）	販売量の動き	・天候不順もあるものの、ファッション関係では、婦人服、婦人用雑貨といった季節商材の動きが依然として鈍い。

スーパー（店長）	お客様の様子	・天候不順の影響で、季節品を中心に肌着や婦人関連の苦戦が続いている。また、食品も競合店の出店による影響がみられるほか、季節商材の売行きが不調である。さらに、中元商戦も立ち上がりで苦戦しているほか、たばこの値上げを前にした駆け込み需要も以前ほど大きくはない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の減少は、競合店の増加のほか、ドラッグストアが飲料や菓子の販売を始めるなど、他業種の参入による競争激化が一番の原因となっている。さらに、景気の先行き不安も来客数の動きに影響を与えている。
スーパー（企画担当）	お客様の様子	・今月は雨が多く、夜間の売上が伸びなかったほか、サッカーワールドカップの開催期間でもあり客足が鈍っている。
スーパー（経理担当）	お客様の様子	・客の動きには依然として競合店との買い回りがみられる。また、必要な物を決めた場所で買い、さらに価格を比べながら買う傾向が続いている。
スーパー（広報担当）	販売量の動き	・天候不順や気温が例年より低かった影響で、季節商材の売行きが不振である。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・売上、販売量共に前年割れが続いている。昨年度、一昨年度も前年割れであり、3～5%の減少が続いている。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・悪い状態が過去2年間続いており、今も底の状態である。また、先月と同様に高級品と低価格品への需要の二極化が進んでいる。
家電量販店（経営者）	お客様の様子	・客の買換えサイクルが伸びているほか、薄型テレビなどでは単価の下落が激しい。しかし、依然として客の財布のひもは固い。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・近隣に競合店が3店舗できたために来客数が減少し、レジの通過回数は前年を下回る状態が続いている。競合店と客を取り合っている状態で、今後もこの状況は続く。
家電量販店（企画担当）	単価の動き	・薄型テレビの売行きは堅調に推移しているものの、昨年と比較すると単価の下落が激しい。
その他専門店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・自分をいやすためのサプリメントなどの高額商品が動いているものの、価格競争の影響で利益が伸びていない。
その他専門店【医薬品】（店員）	来客数の動き	・2店舗をリニューアルオープンしたこともあり、若干来客数が伸びたものの、それ以外の地域では前年を下回る状態が続いている。
一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・市況の底打ちに関する声が聞こえ始めている。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数は3か月連続で横ばいとなっているほか、客単価も多少の波はあるものの、横ばいで推移している。大きな変化はない一方、大きな落ち込みもないなど、やや良い傾向となっている。
スナック（経営者）	来客数の動き	・客の増減が特定の曜日に集中するといったアンバランスな状態ではなくなり、少人数の客が安定的に入る状態が続いている。ただし、この状況が良いのかどうかは判断が難しい。
観光型旅館（経営者）	単価の動き	・客の入込数は4、5月に比べて大きく落ち込んでいるものの、客単価はこの2～3か月ほとんど変化がない。
観光型旅館（団体役員）	単価の動き	・昨年は30数年ぶりに業績が低迷した。今年に入りやや回復基調ではあるものの、一昨年の水準までは達していない。
旅行代理店（店長）	単価の動き	・客単価が低いほか、あまり変動がない。さらに、サッカーワールドカップの影響で客足も伸びず、閉店間際の引きも早かった。
タクシー運転手	それ以外	・タクシー無線を通じた客の乗車依頼が減っている。当社の経営方針も影響しているものの、利用者の幅が狭くなっている。
タクシー運転手	お客様の様子	・昼間は修学旅行客の利用もあり売上が伸びたものの、夜間は良くない状況が続いている。
タクシー会社（経営者）	お客様の様子	・夜の繁華街は以前に比べると人通りが増え、サラリーマンの姿も目立つようになったものの、タクシーに乗らず、電車で帰る動きも続いている。

	通信会社（経営者）	来客数の動き	・携帯電話はワンセグなどの新機能を備えた機種が出てきているものの、客の動きはさほど良くない。
	遊園地（経営者）	来客数の動き	・来客数が昨年よりも若干減少しているものの、客単価は伸びている。
	競輪場（職員）	単価の動き	・3か月前の客単価の19,423円に比べて、今月の客単価は19,622円と、ほぼ横ばいが微増傾向にある。
	競輪場（職員）	単価の動き	・今年に入って平均購買単価が低位ながら安定し、徐々に上昇のけはいも感じられたものの、今月は再び下落気味となった。
	その他レジャー施設 [ イベントホール ]（職員）	それ以外	・稼働日は先月ほど多くはないものの、様々なジャンルの催事が行われたほか、ある程度は各催事が成功に終わった。
	美容室（店長）	販売量の動き	・月後半に急激に暑くなったことで、セット販売を行っているホワイトニング化粧品の売行きが例年よりも良かった。
	その他サービス [ ビデオ・CD レンタル ]（エリア担当）	販売量の動き	・映像や音楽のレンタル売上及び書籍売上は前年をクリアしたものの、CDやDVD販売による売上は伸び悩んでいる。
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・物件の流れが大手グループに偏ってきており、中小企業への流れが極端に悪くなった結果、販売量が落ちている。
	住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・土地の売却に関する入札では、不動産業者による高値での落札が続いている。その一方で、不動産ファンドの動きは、ファンドマネジャーが慎重に物件を選別し始めているなど、以前のスタンスからは変化がみられる。
	住宅販売会社（総務担当）	来客数の動き	・住宅ローン金利の上昇が懸念されるなか、展示場への来客数は前年並みである。
	その他住宅 [ 展示場 ]（従業員）	お客様の様子	・1月から前年比で2割の増加をみせていた展示場来場数は、6月に入って伸びが鈍化した。
	その他住宅 [ 情報誌 ]（編集者）	お客様の様子	・新築マンションの売行きは一進一退の状況である。価格の上昇傾向を見極めるためか、新規供給量もここ数年では最低レベルで推移しており、供給量の少なさがエンドユーザーの動きを鈍らせている感もある。
やや悪くなっている	一般小売店 [ 酒 ]（経営者）	来客数の動き	・サッカーワールドカップの影響で来客数が減少したものの、何とか昨年並みの売上は確保している。
	一般小売店 [ 精肉 ]（管理担当）	来客数の動き	・道路交通法の改正による影響だけではないものの、普段は空いている近所の駐車場が一杯になっている。また、商業施設の集客状況にも影響が出ており、大型駐車場を完備している商業施設へ客が集まっている感がある。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・株価の下落による影響もあり、宝飾や時計などの高額品の動きが前月から急に悪化している。季節商材を中心とした夏物商戦にもヒット商品が見当たらないほか、天候不順もあって、売上は前年を下回っている。一方、サッカーワールドカップによるマイナスの影響は前回ほどはみられなかった。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・中元商戦の早期割引や、カード会員を対象とした優待販売会などで来店を促しているものの、日々の来客数は前年比でマイナス基調が続いている。近隣の同業他店も同様で、前年の来客数に届いていない。
	百貨店（統括）	販売量の動き	・住まいや食品関連の商品の動きは、3か月前とあまり変化はないものの、朝晩の気温が低いことなどから衣料品関連の売行きが低迷している。
	スーパー（経営者）	来客数の動き	・近隣の競合店との競争激化により、赤字広告商品でさえ以前よりも販売量が減少している。
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・弁当とお茶は買ってもデザートは買わないなど、必要な物しか買わない傾向が続いている。
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・携帯電話やPHSでは定額制やグループ間通話が無料といったサービスが定着してきたことで、プリペイドカードの売上が激減しており、客単価が低下する要因となっている。

		コンビニ（店長）	販売量の動き	・既存店売上の前年比をみると、4月はマイナス2.5%、5月はマイナス1.2%、6月は20日現在でマイナス0.5%と、4、5月からはやや持ち直している。ただ、4、5月は天候に恵まれなかったことから、基本的には売上が増加基調にはなっていない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・天候不順の影響もあり来客数が減少しているほか、客に購買意欲が感じられない。例年、6月後半ごろにはバーゲンセールを開始時期の問い合わせがあるのに対し、今年は例年の7割程度である。
		その他専門店 【宝飾品】（販売担当）	単価の動き	・昨年に比べて売上は伸びているものの、金相場の上昇で宝石類の商品原価も上がっており、利益が薄い状態である。また、販売量も特に増えていない。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前月と同様に来客数に回復がみられず、客単価の上昇でも売上を支えられなくなっている。
		観光型ホテル（経営者）	競争相手の様子	・6月の販売量は前年比マイナス20%と非常に悪い。同業者の状況も一部の例外を除いて悪いほか、旅館への出入業者に聞いても悪いという声が多い。同業者の多くはサッカーワールドカップによる影響を挙げているが、決してそれだけではない。
		都市型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・6月の宿泊はほぼ前年並みに推移しており、良くもなく悪くもない状況である。一方、宴会やレストランについては、前月に続き最悪の状態が続いている。また、婚礼は前年よりも件数が増えているものの、規模が小さく単価が下がっていることから、売上は減少している。
		旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・サッカーワールドカップの影響もあり、夏の旅行への申込状況が芳しくなく、特に国内旅行の申込に勢いが無い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・大阪では毎月タクシー会社が増えており、需要と供給のバランスが崩れてきている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・土日は車で大型店へ買物に行く人が増えるため、商店街は平日よりも人通りが少なくなっている。
	悪くなっている	その他専門店 【宝石】（経営者）	来客数の動き	・例年どおり梅雨で来客数が減少しているものの、今年はサッカーワールドカップが行われたため、特に来客数が少なく、前年比で50%減少している。また、これが一時的な動きかどうかは判断が難しいものの、宝飾品を買うような雰囲気ではなくなっている。
企業動向関連	良くなっている	電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・最近では中古品の販売や修理が好調である。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・建機部品製造業や自動車部品製造業、メッキ業、高級紳士服製造業などでは、売上、収益共に伸びている。
	やや良くなっている	出版・印刷・関連産業（情報企画担当）	受注量や販売量の動き	・例年になく受注量が多くなっているほか、取引先の合併による効果が出てきている。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に計画どおりの順調な推移となっている。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・土地価格が上がっていることもあり、取引先の購買意欲も高く、積極的に土地を探している。
		建設業（経営者）	競争相手の様子	・同業者から見積の照会が来るようになった。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷物量は前年よりも増加傾向にあるものの、原油の高騰や道路交通法の改正などによって、経費が増加傾向にある。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・今年の夏は蒸し暑くなると言われており、夏物商材の売行きが非常に好調である。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新聞広告への需要が低迷している一方、Web広告は更に伸びている。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・全体的な受注額や単価は確実に落ちているが、景気回復を期待したクライアントからの受注件数は増加している。	
	変わらない	食料品製造業（経理担当）	それ以外	・農薬法の改正で食品への表示方法が厳しくなり、新製品の開発に影響が出ている。
		繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・例年より受注量が減少している。

繊維工業（総務担当）	取引先の様子	・催事の運営方法によって売上が大きく異なり、運営の上手な取引先では注文が増え、下手な取引先では減っている。調子の良い取引先が出てきたことで、全体としては下げ止まっている。	
パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・悪くもなく、良くもないという状態で、販売量ベースでは微増である一方、利益は横ばいである。競合相手の多くも同じような状態となっている。	
化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・非常に不安定な出荷状況が続いている。	
金属製品製造業（管理担当）	それ以外	・注文の増加に対して、人を増員しながら生産を行っているものの、人件費や配送コストなどの増加で赤字になる可能性があるなど、販売価格を見直す必要が出てきている。	
一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社の取引先には製鉄関連の企業が多いが、相変わらず設備投資意欲がおう盛である。最近1年以上はこのような状況であり、好調が続いている。	
電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・製造業向けに装置を納入しているが、昨年と比べて今年は納入が少ない。ただし、4月以降は低調であったものの、6月下旬から少しずつ注文の話が出てきた。	
電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・既存顧客からの見積依頼件数が、前年比で横ばいである。	
電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・薄型テレビやHDDレコーダーなどの荷動きは堅調であるものの、3か月前に比べるとやや鈍化傾向がみられる。また、エアコンなどの季節商材も、前年に比べるとやや出足が遅い傾向にある。	
その他製造業〔履物〕（団体役員）	受注量や販売量の動き	・季節商材の受注動向が不安定である。	
輸送業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の家具販売店ではCM効果が薄かったほか、客の目に止まる商品も少なく販売量が伸びなかったことから、配送量が増えなかった。	
輸送業（営業担当）	それ以外	・売上は順調であるものの、軽油の高騰や道路交通法改正に伴う経費の増加分を、販売価格になかなか転嫁できない。	
不動産業（経営者）	取引先の様子	・デベロッパーによる分譲マンションや分譲住宅などの開発用地の取得意欲が、依然としておう盛である。	
不動産業（営業担当）	取引先の様子	・神戸市中央区から東方面では地価の上昇が続いていたものの、ここへ来て価格が横ばいとなっている。また、オフィス賃料についても同様の動きとなっている。	
広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・各ショッピングセンター共に、夏に向けて来客数は増えているものの、売上自体は伸びていない。	
コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・家電量販店からの販促用品などの発注が目立っている。季節商材のエアコンのほか、洗濯機などの白物家電にヒット商品が多いことも影響している。また、パソコンや液晶テレビについても、サッカーワールドカップの開催もあり、売上の顕著な伸びがみられた。その一方で、当店では個人客による利用の減少が目立っており、特に梅雨入り後は来客数がかなり落ちている。	
その他サービス業〔イベント企画〕（経営者）	取引先の様子	・取引先の販売促進を目的とした新規案件の引き合いが増えている。	
その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	取引先の様子	・気温が上がらなかったため、例年は夏に注文の増える製品の動きが鈍い状況である。	
やや悪くなっている	食料品製造業（従業員）	取引先の様子	・同業者の食品メーカーでは、天候がはっきりしないことで、例年は夏に売れる製品の動きが良くないといった声が多い。
	電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・当社の属するエレクトロニクス製品業界と水処理装置業界の動きをみると、エレクトロニクス業界の状況はやや良いものの、水処理装置業界では、特に公共予算の動向に関係の深い水景施設関係で閉店が増えているなど、やや悪い状況である。

	輸送業（営業所長）	受注量や販売量の動き	・関西国際空港の輸出貨物は動きが好調である一方、輸入貨物は動きが鈍い。	
	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折り込み広告の件数が減少している。	
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・テレビスポットCMなどの出稿量がやや減少傾向である。	
	悪くなっている			
雇用関連	良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・一般求人の増加幅が広がっているほか、6月から始まった平成19年3月卒の高卒の求人が順調である。さらに、求人1件当たりの求人数も増加傾向であるほか、一般求人、パート求人共に賃金の上げが目立つようになってきた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で47か月連続の増加となったほか、主要産業別にみると、建設業を除くすべての産業で前年を上回った。また、製造業をはじめとする6業種で2けたの伸びを示したほか、全体でも3か月ぶりに2けたの増加となった。さらに、有効求人倍率も8か月連続で上昇しており、改善傾向が続いている。
やや良くなっている		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人数の増加に伴い、求職者が仕事を選び好みするようになっている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・業務請負業や人材派遣、人材紹介に関する求人及び登録者の募集が活発化している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は前月比で1.3%と伸び率が鈍化したものの、前年比では約15%増加と高水準で推移している。特に、自動車用電装品や電力プラント用部品などの電気機械や一般機械の分野では、採用人数が数十人といった求人が目立つ。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、有効求人数共に前年比で増加傾向が続いており、新規求人数は13か月連続、有効求人数は24か月連続の増加となっている。その一方、新規求職者数、有効求職者数は共に前年比で減少傾向が続いており、新規求職者数は7か月連続、有効求職者数は6か月連続の減少となっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人企業数は前年比で18%増と企業の採用意欲は向上している。さらに、来校企業数も5月に続き大幅に増加した。
変わらない		人材派遣会社（経営者）	求職者数の動き	・先月に続いて派遣業界は良くも悪くもなく、例年通りの動きとなっている。ただ、派遣登録者数がかなり減っており、各社で取り合いになっている。そういった状況でも、企業からは高度な求人依頼が寄せられているが、登録者のスキルがそれに追いついていない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・有料の広告は出さなくなった企業が増えたため、新聞媒体の求人がかなり減ってきた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・最近では、新規求人数が前年と比べて微増ながら増加傾向となってきたものの、今月に入って微減となった。また、正社員求人の割合はまだ少ないなど、企業の姿勢は依然として慎重である。
		民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・例年この時期は建設業の日雇求人が最低の水準となるが、今年はその割には良い状況である。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・数人の中小企業の経営者に話を聞いたところ、例年並みの採用数でも充足できていない。
	やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・インターネット、紙媒体共に、人材派遣会社が求める若い年齢層のスタッフが集まりにくくなってきた。
	悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・6月の新聞求人広告の動きは明らかに悪くなった。新卒の採用市場の活性化などがいわれているものの、倒産件数の増加など企業の好不調が明らかに分かれており、実感が無い。